

大津支え協は、皆さんがいくつになっても住み慣れた町で、生き活きと生活をしていくことを目的に、生活支援サービスや通いの場サロン等)を通じて高齢者の社会参加の促進を目指します。

「スモールアクション」で支え合い・助け合い！

地域のご近所同士が互いに助け合う新しい形の“となり組的互助”として、自らが気づき自らができる小さな行動(=スモールアクション)が求められています。

“今できる小さな福祉活動(=スモールアクション)”を自発的に行うことによって、住民同士の支え合い・助け合いの輪が広がっていきます。

《 大津地域のスモールアクション 》

休憩用ベンチで「ちょっとひと休み」

大津地域には地域の方々に休憩用に使ってもらおうという思いから、自宅の敷地内にベンチを置いている方がいらっしやいます。

こうした「一人ひとりが身近で気軽に無理なくできる行動」から地域の連帯感が生まれ、「福祉の風土づくり」に繋がります。



桜が丘東映団地
：瀬戸 様

桜が丘1丁目：
小原 様

大津支え協 問い合わせ先：大津地区社会福祉協議会 834-2487

支え合い団体の皆さんの意見交換会を行いました。

大津地区 8 町内に 8 団体ある支え合い団体の親睦・情報交換・活動のグレードアップを目的に、今回で 2 回目となる意見交換会を実施しました。

基調講演をお願いした「馬堀台団地お助け隊」は、平成 27 年から助け合い活動を開始し、最近では県立保健福祉大学とも連携してサロン活動も行っています。

【馬堀海岸 4 丁目助け合いの会】

今後の活動の充実に向けて、メンバー募集も兼ねて、できるお手伝い・して欲しいお手伝いについてのアンケートを実施しました。

助け合い活動の他に、住民が集まる機会を作る手助けも加え、話し合いを進めているところです。



【コーポ湘南大津サポートの会】

活動 7 年目で、「会」の存続とこの先の運営費を考え、賛助会費を住民から募集した結果、「サポートの会」が無くなっては困るということで、想定外の賛助会費が集まりました。

住民の皆様にとって「会」が有ることで安心して暮らせるようです。

【大津シーハイツ・サポートクラブ】

サポートクラブとしても、災害時に支援を必要とする要援護者一人ひとりに対応する「近隣の支援者」を定め、災害時や地域の災害訓練の際にその方々とのコミュニケーションを密にしていくこととし、自治会や管理組合とも連絡を取り合っていくこととしています。



【まとめ】

支え合いにも地域性があり、自身の住む場所にフィードバックし自分達が何をすれば地域が良くなるのかを考え、行動することが大切です。

また、自らが気づき自らができる小さな行動「スモールアクション」は、ご近所同士の助け合い、また町の安全・安心にも繋がります。

活動団体ごとに悩みや得意分野の違いもあり、団体同士の助け合いや大津地区全体をカバーする地区社協ボラセンとの連携も必要になってきます。